

## ⑫ 公開特許公報(A) 平3-17006

⑬ Int. Cl.<sup>5</sup>A 61 K 7/02  
7/00

識別記号

A  
C  
N

庁内整理番号

8413-4C  
8413-4C  
8413-4C

⑭ 公開 平成3年(1991)1月25日

審査請求 未請求 請求項の数 4 (全6頁)

⑮ 発明の名称 クレンジング料組成物

⑯ 特 願 平1-151195

⑰ 出 願 平1(1989)6月14日

⑱ 発 明 者 甲 斐 正 信 東京都大田区上池台4丁目40番5号 株式会社学習研究社  
内  
⑱ 発 明 者 永 井 寛 之 東京都大田区上池台4丁目40番5号 株式会社学習研究社  
内  
⑱ 発 明 者 井 上 太 一 郎 東京都大田区上池台4丁目40番5号 株式会社学習研究社  
内  
⑲ 出 願 人 株式会社学習研究社 東京都大田区上池台4丁目40番5号  
⑳ 代 理 人 弁理士 下田 容一郎 外2名

## 明 細 書

## 1. 発明の名称

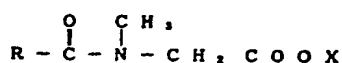
クレンジング料組成物

## 2. 特許請求の範囲

(1) 次の(イ)～(ハ)を含有することを特徴とするクレンジング料組成物。

(イ) 次の(a)乃至(c)の乳化剤のいずれか一種又は二種以上の混合物 0.1～5重量%

(a) 一般式



で示されるN-アシルアミノ酸の塩

(b) 一般式



で示されるN-アシルアミノ酸の塩

(c) 一般式



で示されるN-アシルメチルタウリン塩

(上記(a)乃至(c)の各式中、Rは炭素数11～17のアシル基を、XはNa、K、Caのいずれかの対イオンを表す。)

(ロ) 室温で液状を呈する液状油を組成物全体の35～95重量%、

(ハ) グリセリン水溶液を全水相の60～100重量%で組成物全体の5～45重量%

(2) 乳化剤の水溶液クラフト点が0℃以下である請求項1記載のクレンジング料組成物。

(3) 乳化剤のアシル基が、ラウロイル基、ミリスチル基、パルミトイル基、ステアロイル基、オレオイル基、ココイル基又は牛脂脂肪酸、やし油脂肪酸等の混合脂肪酸に由来する混合アシル基である請求項1又は2記載のクレンジング料組成物。

(4) 液状油が流動パラフィン、スクワラン、オリーブ油、ホホバ油、ミリスチン酸オクチルドデシル、パルミチン酸イソプロピル、ミリスチン酸イソプロピル及びシリコン油等の一種又は二種以上の混合物である請求項1又は3のいずれかに記

載のクレンジング料組成物。

### 3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明はクレンジング料組成物に関する。

(従来の技術)

一般に、皮膚にとって古くなった皮脂や役目を終えたメイクアップ化粧料はいずれも汚れとなるが、このようなハードな汚れはクレンジングクリーム等の溶剤型クレンジング料を使用して除去することができる。従来、溶剤型クレンジング料としては、クレンジングオイルやW/O乳化系クレンジングクリームと称される連続相に油を用いたものが使用される。

(発明が解決しようとする課題)

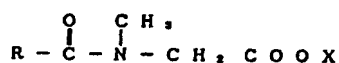
溶剤型クレンジング料は、①油性の汚れをクレンジング料の油相に溶解・分散する過程と、②それを皮膚から除去する過程とからなり、この二つの過程によってクレンジング料としての性能が決定される。

ところが、従来のクレンジングやW/O乳化系

グ料組成物に、次の(i)～(h)を含有した。

(i) 次の(a)乃至(c)で表されるN-アシルアミノ酸の誘導体のいずれか一種又は二種以上の混合物 0.1～5重量%

(a) 一般式



で示されるN-アシルアミノ酸の塩

(b) 一般式



で示されるN-アシルアミノ酸の塩

(c) 一般式



で示されるN-アシルメチルタウリン塩

(上記(a)乃至(c)の各式中、Rは炭素数11～17のアシル基を、XはNa、K、Caのいずれかの対イオンを表す。)

(ロ) 室温で液状を呈する液状油を組成物全体

クレンジングクリームは、連続相が油であるために汚れを素早く溶出させることはできるが、油性感が強い他、クレンジング剤自身の除去が困難であるため、ティッシュ等で拭き取った後水性の洗浄剤で洗い流さなければならない。

しかしながら、ティッシュ等で肌を拭くことは、肌にとってあまり良いことではなく、また、W/O系乳化剤はマッサージ中の転相を経て汚れを溶かし出すが、ティッシュオフの他、もともと親水性の界面活性剤を使用しているために、水を供給して再転相させることによってある程度は洗い流すことも可能であるも、汚れを完全に取り除くことは困難である。

本発明は上記に鑑みてなされたもので、肌への適用が容易で、汚れを速やかに溶出させることができ、伸びが良く、水で完全に除去でき、しかも油性感の強くないクレンジング料を提供することを目的とする。

(課題を解決するための手段)

上記目的を達成するため、本発明はクレンジン

の35～95重量%、

(ハ) グリセリン水溶液を全水相の60～100重量%で組成物全体の5～45重量%

本発明で使用する(i)の乳化剤の成分であるN-アシルアミノ酸の誘導体は、その水溶液のクラフト点が0℃以下の範囲にあることが好ましく、水溶液のクラフト点が室温付近以上のものはゲル生成途中にI相領域を形成せず、得られるクレンジング料組成物は経時的に油が染み出したり、結晶の析出がみられる。

また、乳化剤のN-アシルアミノ酸誘導体を構成する炭素数11～17のアシル基としては、例えば、ラウロイル基(C<sub>11</sub>H<sub>23</sub>CO)、ミリストイル基(C<sub>13</sub>H<sub>27</sub>CO)、パルミトイル基(C<sub>15</sub>H<sub>31</sub>CO)、ステアロイル基(C<sub>17</sub>H<sub>35</sub>CO)、オレオイル基(C<sub>17</sub>H<sub>33</sub>CO)等、その他、牛脂脂肪酸に由来する混合アシル基、やし脂肪酸に由来する混合アシル基等からなるものが挙げられる。

更に、N-アシルアミノ酸誘導体を構成する塩

基としては、Na, K, Caの塩が好ましく、その他の塩基ではゲル化を形成する能力が乏しくなることがある。

更にまた、乳化剤の配合割合は、クレンジング料組成物の全体重量に対して0.1~5重量%で、更に好ましくは0.1~4重量%である。

本発明で使用する(ロ)の油成分たる液状油(クレンジング料組成物から乳化剤、水及び水溶性物質を除いたもの)は、通常化粧品に使用される室温で液状を呈する液体油であれば何でもよく、あまり油性感が強くなく、低粘度の液体油を一種類又は二種類以上混合して用いることができる。あまり粘度が高いと適用時にべとつきが感じられるようになり、好ましくは25℃における粘度が20cp以下、特に好ましくは5cp以下である。

液状油としては、例えば流動パラフィン、スクワラン、オリーブ油、ホホバ油、ミリスチン酸オクチルドデシル、パルミチン酸イソプロピル、ミリスチン酸イソプロピル、シリコン油等のうちの

更に、本発明のクレンジング料組成物の水相には、エタノール、ソルビトール、マルチトール、プロピレングリコール、ジプロピレングリコール、1,3-ブチレングリコール、ピロリドンカルボン酸ナトリウム、ポリオキシエチレンメチルグルコシド、ポリオキシプロピレンメチルグルコシド、グルコース等の保湿剤、グリシン、セリン、プロリン等のアミノ酸、消炎剤、殺菌剤、ビタミン類等の薬効剤を適宜配合することができる。

本発明のクレンジング料組成物を製造するには、例えば乳化剤とグリセリン水溶液を混合溶解し、必要に応じて加熱し、攪拌下で油成分を徐々に添加し、高粘性液状のI相生成物又はゲル状生成物を得た後、必要に応じて前述した他の水溶性成分を加える。

本発明によるクレンジング料組成物は、HLBバランスにあまり影響を受けないイオン性界面活性剤を用い、特にクラフト点の低いものを用いることで、界面活性分子の会合数を増加することによって油を多量に保持したゼリー状の高次構造体

一種又は二種以上の混合物を挙げることができる。

また、液状油の配合割合は、高粘度I相又はゲル相領域を形成し得る範囲で決定され、ゲル組成物全体の35~95重量%、好ましくは50~95重量%である。35重量%より少ないと、得られるクレンジング料組成物のゲルの粘性が低く、汚れが落ちにくくなる。

本発明で使用する(ハ)の水相のグリセリン水溶液は、グリセリン/水の重量比が90/10~10/90の範囲内にあることが好ましく、特に70/30~98/2の範囲内にあることが好ましい。

また、グリセリン水溶液の配合割合は、全水相の60~100重量%の範囲内が好ましく、60重量%より少ないと、ゲルを生成しにくいことがある。更に、クレンジング料が組成物全体に対する配合割合は、5~45重量%の範囲内であることが好ましく、45重量%を越えると適用時にべとつき感が生じて伸びが重くなる。

を形成させることができ、油を多量に含有することにより、ハードな油性汚れやメイクアップ化粧品を速やかに溶出させて、皮膚上で転相させることができ、除去時には水にて容易に洗い流すことができるようになる。また、油の極性に左右されず、広範囲の液状油をゲル化させることができ、更にグリセリンを用いることによって、乳化剤のクラフト点にあまり影響を及ぼさない。

#### (実施例)

以下、本発明の実施例について説明する。

#### 実施例1~2

第1表に示す成分を同表に示す配合割合で配合してクレンジング料組成物を製造した。製造方法は、乳化剤とグリセリン相とを60℃に加熱し、均一に混合溶解した後、攪拌下で油相を同様に混合溶解したものを徐々に加えてゲル組成物を得、その後30℃で残りの水相を加えた。

このようにして得たクレンジング料組成物について、ゲル状態を確認すると共に次の評価試験を行なった。この確認結果及び試験結果を第2表に

示す。

安定性試験では、40℃及び5℃でそれぞれ1か月保存して、変化を確認した。

洗浄力試験では、一定量の汚れを皮膚に付け、クレンジング料組成物でマッサージした後、そのままシャワーで水洗し、官能評価した。なお、試験結果は15名の平均値であり、評価基準は第3表に示す基準によった。

#### 比較例1～3

実施例1～2と同様の製造方法によって、第1表に示す成分を同表に示す配合割合で配合してクレンジング料組成物を製造し、得られたクレンジング料組成物について、実施例1～2と同様にゲル状態を確認すると共に評価試験を行なった。この確認結果及び試験結果を第2表に示す。

(以下余白)

第2表

実施例	1	2	ゲル状態	安 定 性		洗浄力
				40℃	5℃	
比較例	1	2	良好	変化なし	変化なし	+2.0
	2	3	良好	変化なし	変化なし	+1.8
	3	4	やや不良	40℃ 5℃	変化なし 結晶析出	+0.8
比較例	1	2	直後に油分離			-
	3	4	やや不良	40℃ 5℃	分離 結晶析出	0

第3表

完全に落ちた	やや落ちた	全く落ちなかった
+2	+1	0

第2表の結果から明らかなように、本発明のクレンジング料組成物は良好な安定性及び洗浄力が得られた。

#### 実施例3～4

成分	配合割合 (%)					
	1	2	3	4	5	6
ラウロイルサルコシネートトリウム (クラフト点0℃以下)	4.0	3.0	-	-	-	-
N-ステアロイルオキシメチルグルタミン酸トリウム (クラフト点58℃以下)	-	-	4.0	5.0	3.0	-
ミリスチン酸オキチルトリウム	80	40	60	80	40	40
流動パラフィン	-	20	-	-	20	-
ブチルパラベン	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
香料	微量	微量	微量	微量	微量	微量
88%グリセリン	12	12	12	12	12	12
ソルビトール	-	2.0	-	-	-	-
エタノール	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
水	バランス	バランス	バランス	バランス	バランス	バランス

実施例1～2と同様の製造によって、第4表に示す成分を同表に示す配合割合で配合してクレンジング料組成物を製造し、得られたクレンジング料組成物について、実施例1～2と同様の安定性試験を行なうと共に、次のゲル強度の測定を行なった。これらの試験結果を第5表に示す。

ゲル強度測定では、得られたオイルゲル組成物を一定量ビーカーに採り、一定荷重(最大1kg)をかけて最大となる数値の平均値を求めた。なお、測定には、レオメータ(不動工業製)を用いた。

#### 比較例4～7

実施例1～2と同様の製造方法によって、第4表に示す成分を同表に示す配合割合で配合してクレンジング料組成物を製造し、得られたクレンジング料組成物について、実施例3～4と同様の安定性試験及びゲル強度の測定を行なった。これらの試験結果を第5表に示す。

(以下余白)

第 4 表

成 分		組 成 (%)					
		実 施 例		比 較 例			
		3	4	4	5	6	7
乳 化 剤	オレオイルサルコシンナトリウム (クラフト点0℃以下)	1.0	5.0	1.0	-	-	-
	ラウロイルサルコシンナトリウム (クラフト点0℃以下)	0.5	-	-	-	-	-
油 相	N-パルミトイルメチルタウリンナトリウム (クラフト点43℃)	-	-	3.0	5.0	1.0	3.0
	スクワラン	-	10	10	-	-	30
	ホホバ油	10	-	-	30	-	-
	ミリスチン酸イソプロピル	20	60	60	30	20	20
	流動パラフィン	30	-	-	-	-	-
	ブチルパラベン	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
	香 料	微量	微量	微量	微量	微量	微量
グ リ セ リ ン 相	70%グリセリン	20	10	50	10	10	-
	マルチトール	-	5	-	-	-	30
水 相	ピロリドンカルボン酸ナトリウム	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	2.0
	水	バランス	バランス	バランス	バランス	バランス	バランス

第 5 表

		安 定 性		ゲル強度
実 施 例	3	40℃ 5℃	変化なし 変化なし	800
	4	40℃ 5℃	変化なし 変化なし	950
比 較 例	4	40℃ 5℃	油 分 離 結 晶 析 出	450
	5	40℃ 5℃	油 分 離 結 晶 析 出	100
	6	40℃ 5℃	ゲル化しな かった	-
	7	40℃ 5℃	ゲル化しな かった。	-

第5表の結果から明らかなように、本発明のグレンジング料は、良好な安定性とゲル強度が得られた。

次に、上述した実施例1、3及び比較例1、4、5の各グレンジング料について、10名の専門パネラーが予めメイク化粧料を施した後、グレンジング力を官能評価した。その結果を第6表に示

す。なお、数値は10名の平均値であり、評価基準は第7表に示す基準によった。

第 6 表

実 施 例		比 較 例		
1	3	1	4	5
+2.0	+1.4	+0.8	+1.0	-1.2

第7表

非常によく 落ちる	やや落ちる	普 通	やや落ちが 悪い	非常に落ち が悪い
+2	+1	0	-1	-2

第6表から明らかなように、本発明のグレンジング料は、良好なグレンジング力が得られた。  
(発明の効果)

以上説明したように、本発明によれば、特定のN-アシルアミノ酸の誘導体を乳化剤として用い、この乳化剤と一定濃度のグリセリン水溶液及び液状油とを含有したので、肌への適用が容易で、汚れを速やかに溶出させることができ、伸び

が良く、水で完全に除去でき、しかも油性感の強くないクレンジング料を得ることができる。

特許出願人	株式会社	学習研究社
代理人	弁理士	下田 容一郎
同	弁理士	大橋 邦彦
同	弁理士	小山 有